

研究成果の紹介

1 新病害ハボタンバーティシリウム萎凋病の発生

ねらいと成果

2005年8月、兵庫県南部で、ハボタンが萎凋し、葉の半身が黄化、導管が褐変する症状が発生した(図1)。この原因を追及した結果、土壌病原菌の仲間である *Verticillium nigrescens* によることが判明したため、日本植物病理学会で、「ハボタンバーティシリウム萎凋病」と呼称することを提案した。本県におけるハボタンは花壇苗の主力品目であり、発生拡大が懸念されるので、その特徴等について紹介する。

内容

(1) 被害の様子

葉の半身が黄化又は葉の葉縁部からV字状に枯れ込む症状がみられ(図2)、葉柄の葉脈、茎の導管などが茶褐色に変色し、病気が進展すると萎凋、早期落葉する(図1)。

(2) 病原菌

Verticillium nigrescens Pethybridge という不完全菌類の一種である。植物遺体又は土壌中に生息する。



図1 株全体の萎凋症状と葉の半身の黄化(左:健全株、右:罹病株)

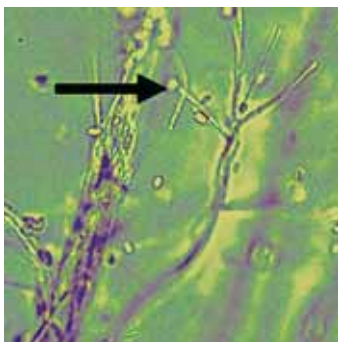


図3 *Verticillium nigrescens* の分生子及び分生子柄(矢印)

分生子は輪生状の分生子柄の先端に形成される(図3)、生育温度は10~35℃と、かなり高温でも生育できる菌である。

(3) 伝搬様式

病原菌は植物遺体などとともに菌糸や厚壁孢子として土中で生存し、根から感染して導管部に入り、茎葉部にも移行する。*Verticillium* 属菌は種子伝染することが知られており、ハボタンの場合もその可能性がある。

普及上の留意点

(1) 健全種子を用い、できれば種子消毒(乾熱:40℃24時間の予備処理後、70℃7日間)をする。

(2) ポット育苗では無病の培土、新しいポットを用いる。

(3) *V. dahliae* (トマト半身萎凋病菌)などと比べて病原性はあまり強くないので、適正な肥培管理を行い、健全な生育をさせれば防止効果がある。

神頭 武嗣(農業技セ・病害虫防除部)

(問い合わせ先 電話0790-47-2448)



図2 葉の病徴(半身の黄化・V字の枯れ込み)



図4 再現された病徴(矢印:茎=導管の褐変)